

## ニシウラ

鳥取県鳥取市

「倒産寸前の建設業から  
介護・福祉事業に。あつたらいいな、  
の声を権利化に結び付けます」



16年発売のフィットノブ。車いすのブレーキに装着し、操作を助ける。口コを入れたり、車に装着したり、可能性は無限。意匠登録出願中。

### 建設業を生かした介護参入 顧客の声から商品も開発

鳥取県で介護製品の開発や福祉用具の販売を手掛ける株式会社ニシウラ。車いす用摂食嚥下<sup>ちじくたんげ</sup>テーブルのシェア全国トップクラス、介護用紙おむつのシェア山陰一を誇るが、前身は「西浦組」という建設会社だ。介護リフォーム事業を始めたのは1998（平成10）年。それまで公共事業の建設を主に請け負ってきたが、政策が変わり発注が激減したのが理由だった。「一級建築士がいたのでその知識を武器にしようと、最初にリフォーム業を考えました。でも、単なるリフォーム業では新参者は特色を出しにくい。そんな時、これから介護の時代が来ると聞いたのです」と、2代目代表取締役の西浦伸忠さん。しかし、介護リフォームは国や自治体の補助金制度により受注が安定しないこ

となどから、07（平成19）年、西浦さんが2代目を継いだのを機に、社名を変更し、公共事業から完全撤退。本格的に福祉・介護事業分野に転換した。

この時、西浦さんはおむつ、現専務の弟は車いすの勉強を開始。それまでリフォームのために顧客の家を訪れると、家族や本人から「いい車いすやおむつはないか」と相談されることが多かったからだ。「もっとここがこうだったら」「こんな商品があつたら」という現場の声を大切にして生まれたのが「ヨッコイショ」シリーズ。車いす用サポートクッション「ヨッコイショクッション」を筆頭に、車いす用の「ヨッコイショテーブル」などを発売した。それぞれ商品名を商標登録したが、その際「ヨッコイショ」という言葉で商品のブランド化を意識。高齢者が使うので、まず覚えてもらおうと、立つときも座るときも使う「よっこいしょ」



2代目代表取締役の西浦伸忠さん。転身成功の秘訣を聞くと、「一番現場に近い人の話を聞くこと」、そして、「諦めないこと」の二つだと話す

という言葉を採用した。「ヨッコイショ」という言葉は一般的に掛け声として使われるが、商品名で出願したことが幸いし、スムーズに登録できたそう。テーブルは幅と厚みを調整できる構造で特許も取得。また、西浦組の時から唯一残ってくれた一級建築士がCADで図面を引き、商品作りに生かしているのも同社ならではの。これにより一寸たがわず部品を裁断・完成でき、時間もコストも無駄がないという。

### 紙おむつ開発で知財を意識 中国で排せつケア指導も

産学連携で特許を取得した紙おむつ商品もある。おむつの勉強を続けていた西浦さんは08（平成20）年に鳥取県でただ1人（当時）の「オムツフィッター1級」の資格を取得。これを機にセミナーの講師などを多く務めるようになったが、ある時、鳥取大学医学部附

## ココが商標！

登録商標 第5486961号

“よっこいしょ”という掛け声を使うことで、「ヨッコイシヨ」シリーズのブランド化に成功。高齢者にも覚えやすいネーミングが功を奏した。テーブルのほかクッションや衝撃吸収マットなど、利用者の生活を快適にする品が充実。



よりよい姿勢で足をしっかり支える足置き台「足の裏ささえ隊」。利用者の体の状態に合わせて、水平2段階の高さ調節に加えて、約4～8度の傾斜の設定をハンドル操作とスライド溝で簡単に調整できる。車いすの間に収まるサイズで、座った時の体勢をラクに。トイレの排泄時にもしっかり踏ん張れる



裏にある3段の積み木構造で特許を取得。積み木の組み合わせと留め具のネジ調整で、車いすの肘掛けパッドの幅、厚みに応じて変えられる



## ココが特許！

### 車椅子用テーブル

特許 第5812912号、第5812822号

アーム部分の裏側の構造(写真下)で体形や車いすの形を問わず取り付けられるのが、従来にない点。肘をしっかりと置いて、食事、休息、作業などの際に安定した姿勢をキープ。飲食時の誤嚥も防ぐ。



車いす用プレーキノブ「フィットノブ」は、おしゃれで使いやすい形。従来型のノブと比べ、操作時の接触面積が広いので、手のひらを当てるだけで安定した操作が行える。17年からはプロ野球球団「阪神タイガース」とのコラボもスタート

属病院の中山敏准教授と意気投合。以前から同社と取引のあった大王製紙に声を掛け、大人用紙おむつの共同開発が始まった。中山准教授は、病院にある最先端のX線CTスキャンを使い、世界で初めて尿がおむつの中で拡散する撮影に成功。吸収体中央部に拡散ポケットと立体ギャザーを設ける設計で特許を取得し、14(平成26)年に「アテントダブルブロックタイプ」を発売した。現在、権利は大王製紙と鳥取大学が管理し、売上げの一部が還元される形だが、「開発が始まったのは10(平成22)年ごろ。実質的には、業態転換後、最初に手掛けた商品でした。この商品開発に関わることで特許や知的財産を知り、その重要性を意識するようになった」と、西浦さんは振り返る。

「使う人にとって便利で快適なものを作るという点では、建設業も今の業種も似ているかもしれない」。障がいのある人に向けた車いす用テーブルの製作、グッドデザイン賞の受賞など、夢は多方面に向いている。近々、中国で排せつケアの指導も始める予定。中国は今まさに、紙おむつ時代の夜明け。そこに含まれるのがうれしいという。「いずれは日本式の福祉や介護製品、技術も紹介したい。今は建設業をやめると決めた時と同じくらいの覚悟とワクワク感でいっぱいです」。

苦境時代も明るく話す笑顔と不屈のアイデア精神をもって異業種への転身を成功させた西浦さん。一億総活躍時代にあたり、「あったらいいな」のアイデアの泉は今後も湧き続けるだろう。

## Company Profile

- 名称 / 株式会社ニシウラ
- 本社所在地 / 鳥取県鳥取市河原町佐貫1093-8
- 資本金 / 4,300万円
- 従業員数 / 16人
- 事業内容 / 介護製品の開発・OEM受託、車いすなどの福祉用具のレンタルと販売、紙おむつ・消耗品などの販売、介護リフォーム 建築設計施工